まちの史跡めぐり 157

アメリカ移民の話 9
アメリカから来た手紙

町文化財専門委員　石瀧　豊美

「アメリカ移民の話」は、もともと新原出身で粕屋町酒殿（さかど）に養子に行き、明治三十九年（一九〇六）にアメリカに移住した安河内喜三（きそう）について知ったことから書き始めたものです。二〇一三年一月発行『広報すえ』五四六号に「アメリカ移民の話2」を書きました。

喜三は昭和三十六年（一九六一）に八十八歳で死去。その功績に報いるために喜三宅に通じる道路は「キソー・レーン」と命名されました。そこでインターネットで地図を調べてみると、確かに「Kiso Ln」があったのです。アメリカ合衆国、カリフォルニア州、サンマルコス市です。パソコン上の地図を航空写真に切り替えると、「キソー・レーン」は畑の中の一本道で、その先に住宅が見えます。そこが喜三ゆかりの家であろうと見当を付けました。

その記事を町内の人から送ってもらったアメリカの人が、それを読んで、車で三〇分ぐらいの距離だからと、日曜日の午後、お子さんのポールちゃんと現地を訪ねてくださいました。須恵町で想像をめぐらせている私の助けになればと、調査報告と写真がアメリカから須恵町の方に送られてきて、今度はそれを役場に届けてくださいました。そこでせっかくのご好意ですから、ここでその一端を紹介することにしました。このような形で反響があろうとは全く思いもよらないことでした。（五四六号の記事など、過去の広報紙は須恵町役場のホームページから閲覧できます。この連載はおおむね奇数月に掲載されます。）

（手紙から）まず、「Kiso Ln」という道は地図には出ていますが、通りには何も標識などはありませんでした。そして道というより、この家の大きい敷地内の道です。家が畑の真ん中に建っているので、家の門から家までの間の泥道が「Kiso Ln」でした。そして敷地の入口には今は「立入禁止」のサインがあり、私たちは中に入ることができませんでしたので、この家の住人が喜三さんの子孫かどうかも確かめることができませんでした。

地図や航空写真ではわからない情報でたいへん驚きました。「キソー・レーン」は個人の敷地内にあったのです。

写真1が「キソー・レーン（喜三通り）」です。この写真には次の説明が付いています。

左の方の看板に「No Trespassing」と書かれていて、立入禁止でした。道の左側の畑は耕されていて、何かを植える準備ができていて、右側はまだ雑草が生えたまま、休ませてある状態。これから植えられるものがペパーかどうかわかりません。でもこの近所を歩いてみると、レモン、オレンジや、その他、ヤシの木や観葉植物などを作っている農家がたくさんありました。この写真の右上の方に見える白い長い建物は他の農園の温室です。

ペパーにふれているのは、喜三は「コショウ王」と呼ばれたと、私が広報に書いていたので、特に注意して見てくださったのでしょう。

敷地内には古い建物と人の住んでいる新しい建物があり、野ざらしの農機具もあったということです。これらの写真も送ってもらっていますが、ここには掲載していません。

写真2はミュージアムという看板の出ている建物です。

喜三宅から西に一キロぐらい行った所に「Heritage Park（歴史公園）」という公園がありました。その中に三、四軒、一九〇〇年頃に建てられたように見える古い家が残されていて、今は「Museum（博物館）」として使われています。この中にはサンマルコスやこの地に住んでいた人の様子を物語ってくれる資料や写真などが保存されているようです。あいにく日曜日は休館日でしたが、家にかえってインターネットで調べたら、昔、その地に住んでいた人の写真のサンプル写真を紹介していて、アジア人らしき子どもの顔も見られました。もし喜三さんの事、真剣に調べたい人がいるなら、この博物館に資料があるかもしれません。

そして最後に公園で会った近所の住人に何人か話しかけて、ここら辺に喜三さんの子孫らしき日本人が住んでいるかどうか聞いてみましたが、誰も知っている人がいませんでした。

私が調べられた事はこれぐらいしかできませんでしたが、少しは須恵町の人に新しい情報をあげられるよう願っています。

「少し」どころではありません。びっくりさせられました。貴重な情報をお寄せいただき感謝します。

「Heritage」は遺産ですから、この場合は史跡としてゆかりの建物が保存されているということです。私もインターネットを確かめたところ、「San Marcos Historical Society Where History Meets Discovery」というホームページがありました。「歴史が発見と出会う、サン・マルコス歴史協会」という意味でしょうか。すてきな名前です。

このHPから、写真2の左側の建物は一八八八年に建てられたコックス・ハウス、右側の建物はビッドウェル・ハウスだとわかります。

「オリバー・ストリート」と「シカモア・ドライブ（どちらも通りの名）」が直角に交わっていて、その角地にサン・マルコス協会があります。そして、「オリバー・ストリート」と「キソー・レーン」はT字形に交わっています。つまり、「キソー・レーン」と「シカモア・ドライブ」はすぐ近くの平行する道でした。

ところでグーグル・マップで「Kiso Ln」を表示したところ、写真1と同じ風景をながめることができました。なんと「立入禁止」の看板まで読み取れます。

次にパソコンの画面上でオリバー・ストリートからシカモア・ドライブに進んでみました。ストリートビューと言って、歩いて行くように風景が見えるのです（グーグルがあらかじめ撮影しているからです）。シカモア・ドライブの途中、「HERITAGE PARK & MUSEUM」の看板が左を指しています。そちらを見ると、溝を覆った小さな橋があり、そのまっすぐ先、低い山のふもとに写真2の二つの建物が見えました。「キソー・レーン」はなにしろ立入禁止ですからグーグルの撮影班もそこには踏み込んでいません。

写真1　手前がオリバー・ストリート。そこから奥に伸びているのがキソー・レーン。左に小さく標識が見える。

写真2　MUSEUMの看板と二軒の古い家